

3:7 また、フィラデルフィヤにある教会の御使いに書き送れ。『聖なる方、真実な方、ダビデのかぎを持っている方、彼が開くとだれも閉じる者がなく、彼が閉じるとだれも開く者がなく、その方がこう言われる。 3:8 「わたしは、あなたの行いを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。 3:9 見よ。サタンの会衆に属する者、すなわち、ユダヤ人だと自称しながら実はそうでなくて、うそを言っている者たちに、わたしはこうする。見よ。彼らをあなたの足もとに来てひれ伏させ、わたしがあなたを愛していることを知らせる。 3:10 あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。 3:11 わたしは、すぐに来る。あなたの冠をだれにも奪われないように、あなたの持っているものをしっかりと持っていなさい。 3:12 勝利を得る者を、わたしの神の聖所の柱としよう。彼はもはや決して外に出て行くことはない。わたしは彼の上にわたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下って来る新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書きしるす。 3:13 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』』

### 導入

フィラデルフィヤは、7つの教会の中で一番新しい教会でした。フィラデルフィヤのギリシャ語は「フィラデルフォス」で、「兄弟を愛する者」という意味があります。

この町ができた当時の君主アッタロスは、兄エウメネスを深く愛していたので、「兄弟を愛する者」を意味する単語が町の名となりました。

この町が作られた目的はただひとつです。

それは、ギリシャ文化とギリシャ語を広めるためでした。

これについては後ほどお話しますが、当時、ギリシャ語は福音を広めるのに最適な言語でした。ほとんどの人がギリシャ語が多少は話せましたし、最初に翻訳された聖書はギリシャ語だったからです。

イエスが十字架上で死なれた際、「ユダヤ人の王ナザレ人イエス」という罪状書きはヘブル語、ラテン語、ギリシャ語で書かれていました。（ヨハネ 19 : 20）

私は以前ギリシャに旅行した時、飛行機の中である若者と出会いました。私は、自分がクリスチャンで、いくつかギリシャ語について質問したいと彼に話しかけました。その人は流暢な英語が話せました。

とくに私が興味を持っていたのは、ギリシャ語の単語はひとつひとつが固有の意味を持っていて、他の状況には使えないという点です。

これは、原語の聖書を解釈する上で非常に重要です。

その若者は、現代のギリシャ語もその原則は有効だと教えてくれました。もちろん、時代の流れで新しい単語も登場してはいますが、原則は変わらないということでした。

ここで私が言いたいのは、ギリシャ語とローマ帝国は、紀元一世紀の世界に福音が広められる上で大きく用いられたということです。

イエスがおっしゃった開かれた門とは、福音を広めるために開かれた門です。

フィラデルフィヤの特徴は他にもこの手紙で取り上げられています。

町は、火山地帯の平野部分にあり、土地は肥沃でぶどうの産地でもありました。

紀元 17 年に起こった大地震で、サルデスの町全体とフィラデルフィヤの大部分は壊滅状態となり、その後も余震が何年もつづきました。

町は復興のために皇帝から多大な財政援助を受けました。

皇帝の援助に敬意を示すため、町はフラヴィアと改名されました。これは、皇帝の名字でした。ですから、町の人々は新しい名を得ることの意味を心得ていました。後に町は元の名を再び採用しました。フィラデルフィヤは、最後に征服されたクリスチャンの町です。これは 14 世紀の出来事です。フィラデルフィヤは、イスラム教国であるトルコにあります、今でもそこに集うクリスチャンの信徒たちがいます。

では手紙の内容を見ていきましょう。  
ここから、いくつかのことを検証していきます。

## 1. イエスとそのご性質 (7 節)

イエスはこの手紙の最初に、ご自身の名を 3 つ挙げておられます。ひとつめは、「聖なる方」です。「聖なる」というのは神そのものをあらわす言葉です。

イザヤ 6:3 互いに呼びかわして言っていた。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の【主】。その栄光は全地に満つ。」

イザヤ 6:7 彼は、私の口に触れて言った。「見よ。これがあなたのくちびるに触れたので、あなたの不義は取り去られ、あなたの罪も贖われた。」

イザヤ 40:25 「それなのに、わたしを、だれになぞらえ、だれと比べようとするのか」と聖なる方は仰せられる。

イザヤ 43:15 わたしは【主】、あなたがたの聖なる者、イスラエルの創造者、あなたがたの王である。」

旧約聖書では神が聖なる方ですが、その呼び名はよみがえりのイエス・キリストに与えられました。

聖なるというギリシャ語の単語は、他とは違って切り離されているという意味です。

神は人間と違うので、聖なる方なのです。

聖なる、という性質は、神だけの性質です。

イエスがご自身を「聖なる」と呼ぶことは、この性質を神と共有しているという宣言です。イエスは、神と同じ性質をお持ちなのです。

これは、イエス・キリストに関する重要な教えです。

次に、イエスをご自身を「真実な方」と呼ばれます。

ギリシャ語には、真実をあらわす単語がふたつあります。ひとつめは、「アレテス」で、言葉が真実か偽りかといった意味で使われます。

もうひとつの単語は、「アレティノス」でこれは事実か事実でないかという意味で使われます。

この個所で使われているのはこちらの単語です。

私たちにはイエスのうちに現実があります。

日本では、多くの人が仮想世界に生きています。それは現実の世界ではありません。

私が日本に来る前、英国であるテレビ番組がありました。その番組は、ネット上にバーチャル・ガールフレンドを持つ男性を取り上げていました。

恋人とスカイプで話したり、メールしたりするという意味ではありません。

これらの男性の恋人は、コンピューターのプログラムで、実在しません。

コンピューターの恋人は、男性と会話するようプログラムされていて、互いのことを知りあいません。

男性たちは、それが現実のように思いこみますが、すべては仮想の世界です。

おかしな話だと思うかもしれませんが、実際にそういうことが起きているのです。

イエスは、わたしは本物だ、とおっしゃいます。

イエスとの絆は仮想世界ではなく現実です。

聖書の中でイエスと出会う時、それは実在の人物との出会いです。信仰をもってこのお方を心に迎え入れるなら、このお方は私たちにとって現実となります。

3つめの呼び名は、「ダビデのかぎを持っている方、彼が開くとだれも閉じる者がなく、彼が閉じるとだれも開く者がなく、その方」です。

まず、かぎは権威の象徴です。

鍵がかかった扉を開けるにはかぎが必要です。

イエスが究極の権威をお持ちであり、その権威に疑問を呈することは誰にもできません。

この言葉の背景には、旧約聖書の描写があります。

イザヤ書 22：20-23 を読んでみましょう。

22:20 その日、わたしは、わたしのしもべ、ヒルキヤの子エルヤキムを召し、 22:21 あなたの長服を彼に着せ、あなたの飾り帯を彼に締め、あなたの権威を彼の手にゆだねる。彼はエルサレムの住民とユダの家の父となる。 22:22 わたしはまた、ダビデの家のかぎを彼の肩に置く。彼が開くと、閉じる者はなく、彼が閉じると、開く者はない。 22:23 わたしは、彼を一つの釘として、確かな場所に打ち込む。彼はその父の家にとって栄光の座となる。

ヒゼキヤには、エルヤキムという忠実なしもべがいました。エルヤキムは、家のことをすべて任されていました。王の前に人を通せるのはエルヤキムだけでした。

イエスのご自身を、旧約聖書で神に祝福された忠実なしもべになぞらえておられるのです。

ただし、この個所でヨハネが伝えようとしたのは、イエスだけが人々を「新しいエルサレム、新しいダビデの町」に通す権威をお持ちであることです。

## 2. イエスが忠実な教会を褒められる。(8 節)

イエスは、忠実な教会を褒めてくださいます。彼らに少しの力しかなくても、神のみことばを守り、妥協したり神の名を否定したりしなかったからです。

このふたつの褒め言葉について考えてみましょう。

その前に、この教会に少しの力があつたことに注目してください。

教会に少しの力があつたという表現が何を意味するかは定かではありません。

しかし、文脈から考えると、人間的には人数がそれほど多くない、献金が少ない、賛美も楽器の演奏がない、などという状況であつたかもしれませんが、彼らには主にある強さがありました。

パウロはコリント第二 12：10 で「私が弱いときにこそ、私は強い」と言いました。

また、同じ個所の 9 節では、「わたしの力は、弱さのうちに完全に現れる」とも語りました。

コリント第一 1：27 でも、「神は…強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選ばれた」と語りました。

つまり、彼らが弱くても神の力に頼ったので、祝福されたということです。

神の力なしには、私たちには何の力もないと認めるのは、教会の健全な姿勢です。

少しの力しかない教会であっても、神のことばを守る彼らを神は褒めてくださいました。

彼らには新約聖書はありませんでしたが、旧約聖書の写本がいくつかありました。

モーセ五書は必ずあつたはずです。

トラーと呼ばれる聖書の最初の 5 つの書は、ユダヤ人の人々の心と思考に深く刻まれていました。

人間の罪のために十字架で死なれた神の御子イエス・キリストを信じたとしても、彼らはユダヤ人の文化と神のみことばに対する敬意を継承しました。

ユダヤ人は神のみことばに対する非常に深い敬意を持っています。

彼らは神のみことばを何千年も守ってきました。そのおかげで、私たちは現在豊かな神の恵みに与ることができるのです。

現代に生きる私たちも、神のみことばの重要性を認識し、みことばを敬い、従いましょう。教会は、イエスの名を否まなかったという点でも褒められています。それは、クリスチャンであることを理由にひどい扱いを受けたり迫害されたりするような状況でも、クリスチャンであることを否定したり、妥協したりしなかったということです。

### 3. イエスが忠実な教会に約束を与えられる。(8-10節)

イエスは忠実な教会に「だれも閉じることのできない門」を約束なさいました。

では、だれも閉じることのできない門とは何でしょう。

開いた門とはおそらく「宣教の機会」でしょう。

パウロは、コリントの教会への手紙で、「というのは、働きのための広い門が私のために開かれており、反対者も大ぜいいるからです。」と記しました。(コリント第一 16:9)

パウロがトロアスに行くと、主が門を開いてくださいました。(コリント第二 2:12)

パウロは、イエス・キリストを告げ知らせるために門が開かれるよう祈ってほしいとコロサイの教会の人々に頼みました。(コロサイ 4:3)

パウロがアンテオケに戻った時、異邦人に信仰の門が開かれたと人々に報告しました。(使徒 14:27)

開いた門は、フィラデルフィアの町にぴったりの表現でした。ここは主要郵送道路沿いにある国境の町で、ローマ兵の往来が盛んでした。

#### 適用

私たちが祈って神を求め、みことばに忠実であり、信仰を妥協せずにいれば、神は私たち一人ひとりの置かれた場所でチャンスの扉を必ず開いてくださいます。

その扉を用いるのは特権であると同時に責任でもあります。

ですから、イエスを証するあらゆる機会を活かしましょう。

機会が与えられるように祈ったら、聖霊の導きに敏感でいなくてはなりません。

ずいぶん昔ですが、私がセールスマンだったころ、仕事で英国西部のあちこちを旅しました。

同時に、私は国際ギデオン協会の会員でもありました。

ギデオン協会の会員は、適切な場所に新約聖書を設置したり配布したりするように奨励されています。

私はある日、イエスについて分かち合う機会が与えられるように祈りましたが、そのチャンスはやってきませんでした。

家に帰る途中、車のタイヤがパンクして困っている女性を見かけました。

私は車を止めて、タイヤ交換を手伝うと申し出ました。

女性は、日本の JAF にあたる団体にもう連絡したので、すぐにタイヤを替えに誰かが来てくれるはずだと言いました。

それを待つ間、私は女性と一緒に待って話をしました。そのとき、その女性に新約聖書を渡すよう示されました。女性は喜んで受け取ってくれました。

いつでも新約聖書を持ち歩く必要はありませんが、機会が与えられるように祈っているなら、しっかりした内容のトラクトを持ち歩いているとよいでしょう。

無料で手に入るものもたくさんあります。

教会のオフィスにもたくさんあります。

イエスが忠実な教会に与えられた次の約束は、サタンの会衆とここで呼ばれる偽りのユダヤ人たちがいつの日か、彼らの足元にひれ伏すという内容です。そして、このユダヤ人たちは、イエスがこの忠実な教会を愛しておられることも知るようになります。

これは、旧約聖書でユダヤ人に約束されたいくつかの言葉に似ています。

イザヤ 60:14 あなたを苦しめた者たちの子らは、身をかがめてあなたのところに来、あなたを侮った者どもはみな、あなたの足もとにひれ伏し、あなたを、【主】の町、イスラエルの聖なる方のシオン、と呼ぶ。

ゼカリヤ 8 : 20-23

8:20 万軍の【主】はこう仰せられる。「再び、国々の民と多くの町々の住民がやって来る。8:21 一つの町の住民は他の町の住民のところへ行き、『さあ、行って、主の恵みを請い、万軍の【主】を尋ね求めよう。私も行こう』と言う。8:22 多くの国々の民、強い国々がエルサレムで万軍の【主】を尋ね求め、主の恵みを請うために来よう。」8:23 万軍の【主】はこう仰せられる。「その日には、外国語を話すあらゆる民のうちの十人が、ひとりのユダヤ人のすそを堅くつかみ、『私たちもあなたがたといっしょに行きたい。神があなたがたとともにおられる、と聞いたからだ』と言う。」

黙示録は、未来に起こることについての預言です。

ですから、黙示録に記された事柄はいつか実現します。

現在、世界中の多くの国がイスラエルの国やユダヤ人に敵対しています。

ユダヤ人に関するデマや政治プロパガンダは世界中にあふれています。

しかし、いつの日か、世界で話されている言語からそれぞれ十人の人が、ユダヤ人のすそをつかんで、「私たちもあなたがたといっしょに行きたい。神があなたがたとともにおられる、と聞いたからだ」と言うのです。

過去 2000 年に起こったユダヤ人に対する迫害はひどいものでした。とくに、第二次世界大戦中にはヒトラーによって大勢のユダヤ人が虐殺されました。これは非常に悲しい歴史です。

しかし、いつの日か神が状況を逆転させ、ユダヤ人の前に人々がへりくだることになるでしょう。それは喜ばしいことです。

そのためには、ユダヤ人の人たちもイエス・キリストを信じ、神の大教会の一員にならなければなりません。

イエスが忠実な教会に与えられた 3 つめの約束は、全世界に来ようとしている試練の時から神が守ってくださるといふものです。

将来、世界規模の試練がやって来ると聖書は語ります。フィラデルフィヤの忠実な信徒たちは、その試練を免れます。

聖書は、この試練の詳細について語っていませんが、将来全世界に起こる大きな試練については黙示録の後の章に記されています。この試練は、「大患難時代」と呼ばれます。これについては、6-9 章で学びます。

11 月 27 日に、黙示録 6 章を学びます。

その後はクリスマスに向けた学びと新年のメッセージが続き、黙示録 7 章の学びは 1 月 8 日の予定です。

この手紙の締めくくりには、警告ともうひとつの約束があります。

警告はふたつあって、ひとつめはイエスが「すぐに来る」で、もうひとつは、「あなたの持っているものをしっかりと持っていなさい」という内容です。

では、ひとつめの警告から見ていきましょう。

イエスがそう言われてからもう 2000 年も経っているのにまだ帰ってきておられない、と思う人もいるかもしれません。

イエス・キリストがすぐに来られるというのは新約聖書の一貫した概念です。

そこにはふたつの用途があります。

まず、福音で語られるイエスや神の愛を気に留めない人たちに対する警告です。

マタイ 24 : 45-51 を読みましょう。

24:45 主人から、その家のしもべたちを任されて、食事時には彼らに食事をきちんと与えるような忠実な賢いしもべとは、いったいだれでしょう。24:46 主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見られるしもべは幸いです。24:47 まことに、あなたがたに告げます。その主人は彼に自分の全財産を任せようになります。24:48 ところが、それが悪いしもべで、『主人はまだ帰るまい』と心の中で思い、24:49 その仲間を打ちたたき、酒飲みたちと飲んだり食べたりし始めていると、24:50 そのしもべの主人は、思いがけない日の思わぬ時間に帰って来ます。24:51 そして、

彼をきびしく罰して、その報いを偽善者たちと同じにするに違いありません。しもべはそこで泣いて歯ぎしりするのです。

自分の命が終わるのがいつか知っている人はいません。そして、突然その時を迎える人も、長寿を全うする人も、創造主にいつかお会いすることになる、イエスと突然対面することになる、という警告です。

### 英国リバプールの伝道者の話

1989年4月15日の朝、ある伝道者は英国のサッカースタジアムに向かう前に祈って準備していました。彼はよく伝道トラクトを配布していましたが、その際、聖書のみことばが大きく書かれた看板も使っていました。

彼は、どのみことばを使おうかと神に祈りました。

神が、アモス4:12から「あなたの神に会う備えをせよ。」のみことばを示されたので、伝道者はどこからもよく見えるように大きな文字で看板にこのみことばを書きました。

サッカーの試合を見ようと大勢の人たちが彼の前を通り過ぎました。

その日、スタジアム内での事故でサポーターの96名が死亡、766名が重軽傷を負いました。

事故原因の捜査については、後になって隠ぺいや情報の改ざんがなされたことがわかり、再度調査が行われました。結果、史上最長の裁判となりました。

神は、この惨劇が起こる前にそのことをご存じでした。

この時亡くなった96名にとって、イエスは本当に突然やってこられました。

サッカーの試合を見に行行って死ぬとは誰も思いません。けれども、私たちはいつでも神とお会いする準備ができていないといけません。

イエス・キリストの警告が新約聖書で用いられるもうひとつの用途は、迫害を受ける人々への慰めです。

ヤコブ5:8あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです。

ヘブル10:37「もうしばらくすれば、来るべき方が来られる。おそくなることはない。

ふたつめの警告は、「あなたの冠をだれにも奪われないように、あなたの持っているものをしっかりと持っていなさい。」でした。

イエスは、忠実な教会に、その忠実さを持ち続けなさいとおっしゃっています。

そうでないと、イエスが他の誰かをお選びになるかもしれないということです。

神に与えられた働きに私たちが忠実でなくても、神の働きは継続します。そうすると、誰か他の人を神は選ばれるのです。

旧約聖書には、神の召しに応えなかったので、神のご計画が成就するために他の人にとって代わられた人の例がたくさんあります。

サウルは、ダビデに取って代わられました。（サムエル第一16:1,13）

シェブナはエルヤキムに取って代わられました。（イザヤ書22:15-25）

### 最後の約束は12節にあります。

黙示録3:12勝利を得る者を、わたしの神の聖所の柱としよう。彼はもはや決して外に出て行くことはない。わたしは彼の上にわたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下って来る新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書きしるす。

ペテロ、ヤコブ、ヨハネは、初代教会の柱です。（ガラテヤ2:9）

柱は、健全な支えの象徴です。

当時、ほとんどの建物は柱で支えられていました。ですから、建造物の重要な要素でした。当時のフィラデルフィヤでは、生涯忠実に仕えた祭司が亡くなると、人々は祭司に敬意を表して神殿に柱を立てました。そして、その柱に祭司とその父親の名を刻みました。忠実な信徒には、イエス・キリストが神の名と新しいエルサレムの名を記していただきます。忠実な信徒たちは、天国の国籍をいただきます。そして、いつも神の御前にいることができます。  
(エゼキエル 48 : 35)

神に助けていただいて、私たちが神におかれた場所で、忠実に従い、仕えることができますように。  
神はひとりひとりに仕える場所を備えておられます。  
あなたは自分の場所をもう見つけましたか。